

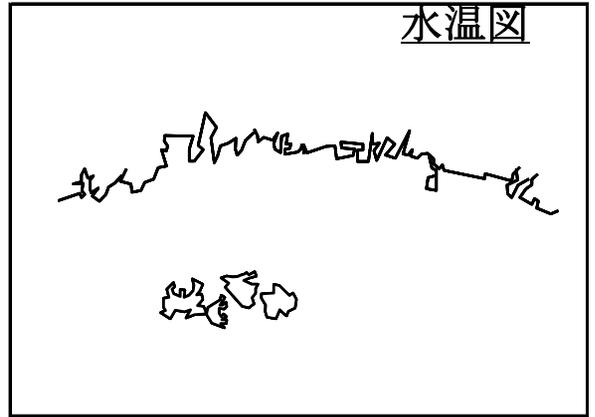
兵庫県のみ漁場環境情報 (西播海域 13 号)

2023年 2月 6日発行
 兵庫のみ研究所

西播地先では、減少傾向にあった珪藻類の発生量は、ここに来て増加しています。沖合漁場では、珪藻類の発生量は依然少ない状況ですが、海域北東部では、小型珪藻のキートセロスが増加傾向にあります。窒素は、海域全般に概ね $1 \mu\text{g-at/L}$ 前後の値となっています。

(珪藻、栄養塩ほか)

西播地先では、小型珪藻のキートセロス、スケルトネマ、大型珪藻のユーカンピアが確認されており、発生量は前回 (1/27) 調査より増加していた。沖合漁場では、珪藻の発生量は少なく、ほぼ確認されない状況であった。ただし、海域北東部の青井では、キートセロスの発生量が増加傾向にあった。各海域のユーカンピア発生量(海水 1mlあたり)は、西播地先で100~300細胞(前回値: 0~150細胞)、沖合漁場で0~5細胞(前回値: 0~3細胞)であった。高島上(調査地点:⑥-3)では、窒素の値がやや高くなっていた。



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	1.1	0.8	1.0	0.6
	リン	0.35	0.53	0.29	0.30
家島・坊勢	窒素	0.6	0.8	1.7	0.7
	リン	0.45	0.58	0.37	0.41

(1/27)

※窒素の平均は高島上を除く

(2/4)

栄養塩 (窒素) 図

2023年 2月 6日調査

